

### 1 自己評価及び第三者評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2892000072		
法人名	有限会社エイプラスアール		
事業所名	カサブランカグループホーム八木		
所在地	明石市大久保町八木642-6		
自己評価作成日	平成28年9月5日	評価結果市町村受理日	平成28年12月19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://kaigo-casablanca.co.jp">http://kaigo-casablanca.co.jp</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人 CSウオッチ		
所在地	兵庫県明石市朝霧山手町3番3号		
訪問調査日	平成28年11月12日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

施設はコンパクトに設計されていますが、職員の目が行き届き安心感があると、利用者様、ご家族様には好評をいただいております。利用者様の日々の変化を見落とさないよう細心の注意を払い、介護保険法によるプランに基づく明確な目標を設定し、職員全員がチームとなり目標を達成できるよう支援しています。

**【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

【優れている点】「笑顔で対話」をモットーにし安心して心豊かな生活を送っていただくことが職員の想い。カサブランカ八木の特徴を活かした気持ちに寄り添うケアが実践されている。利用者の重度化にむけ「看取り」に向け事業所としてできるケアを最大限に活かす姿勢と看取りへの取り組み。提携内科との連携を強化し看護師が24時間活動できる体制を整備している。【工夫点】①H28. 7から運営推進会議を開催し更なる地域密着型サービスの質向上に向けた取り組み。②近隣小学校学童児童との交流の機会。世代間を超え利用者と児童が楽しくふれあい相互に役立つ機会となっている。③食事を楽しむ事への支援。事業所内の畑で収穫した野菜を活用したメニューやおやつ作り。旬の食材や新鮮なものを取り入れている。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが ○ 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

## 自己評価および第三者評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己 者 第 三	項 目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を掲示し、毎日唱和することで職員に意識付けをしている。	理念・基本方針を玄関中や3階フロア入り口に掲示しとても大切なものと意識している。毎日職員全員で唱和し、常に立ち戻る原点として事業所として大切にケアの統一を図っている。	日々のケアと理念がどう繋がっているのか？職員全員で考えてみては如何でしょう。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域のイベントや清掃に参加している。学童保育の子供達も定期的に訪問してくれるなど、地元のボランティアの方々に来ていただき交流している。	夏休みには学童児童約15名との交流を図る。運動会やお祭りなど職員も一緒に地域で必要とされる活動や役割を積極的に担っていく努力がみられる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ボランティアの方や地域の方に認知症の人のかかわり方を理解していただけるよう取り組んでいる。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族様と意見交換を行い、サービス向上に活かしている。	平成28年7月から2か月に1回は運営推進会議の開催を開始している。事業所からの近況や活動報告とともにご家族の質問や、意見を聞く機会を設けている。双方向的な会議になるように取組みを始めている。	行政や地域包括支援センター等の関りは地域密着型サービスの向上にかかせないもの諦めずに呼びかけを継続してほしい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の担当者と日頃から関わり、連絡をとっている。	市長村担当者には、運営や制度の改訂などわからない事は問合せし問題解決にむけ相談している。運営や現場の実情等を伝える機会としている。事業所内で行政の情報を共有したり交換を図ることも多い。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	具体的な事例について、ミーティングで何度も話し合い、細やかに対応し利用者様の身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	月1回のミーティングでは日々の申し送り等で気になるケアについて振り返り、気づかない気持ちについて確認をし点検している。玄関の施錠についても事業所としての姿勢を丁寧に検討し家族にも説明するなど理解が得られるように務めている。	

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日々職員で情報を共有し、虐待防止に努めている。気になったケースについては包括支援センター等に相談するようにしている。	ミーティングでは気になった点など、不適切なケアになっていないか確認し話し合いを行っている。在宅等での虐待行為の発見や通報に関しての対応方法も周知している。	
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要性のある利用者様には活用できるよう、市町村に相談、助言をもらうなどしながら支援している。	権利擁護等成年後見制度に関する外部研修へは管理者やケアマネジャーが参加している。実際に後見人への情報提供など連携を図り活用している。契約時に必要と思われる方を対象に制度の説明や支援を行っている。	
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書にそって説明を行っている。施設側でできること、家族様にお願いすることを明確に、また料金についても十分に説明を行うようにしている。	契約時は、事業所としてできる事、できない事をし明確にし伝えている。今までの問題点を基に十分に説明を行い、理解・納得を得ている。経費等への負担が生じた場合など納得を得た手続きを個別的に配慮する取組みが必要と努力している。	説明の詳細や内容、家族の承諾の有無に関して記録し根拠ある書類作成が大切です。
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃から利用者様ご家族様と連絡を取っている。意見・要望は何かあればすぐ寄せられる。運営推進会議で出てくることもあり、ミーティングで共有し、反映させている。	利用者や家族が気軽に伝えられるような機会を設け、状況に合わせ面会時間も柔軟に設定している。家族にはお手紙や面会時に常に問いかけ、何でも言い合える雰囲気留意している。運営推進会議を活用し意見や要望を聞く場としている。	
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	意見や提案は普段からミーティングなどで報告し順次反映させている。	リーダーが普段から現場での1対1の対応を心がけている。職員の意見を聞き、十分把握した上で代表者に提案している。その内容等は月1回の全体ミーティングの場で報告している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々との面接、相談の機会を設け、努力を認めたり、悩みが出せるようにしている。向上心を持って働けるよう職場環境、条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部の方を招き、おむつやきざみ食などの研修を行った。接遇マナー研修や褥瘡予防研修も予定している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム介護部会定例会、大久保地区在宅サービスゾーン協議会等に参加し同業者や地域の人々と交流しサービスの質を向上させていく取り組みをしている。		

自己	第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	不安や要望に耳を傾け、ゆっくりと話をする機会をもつようしている。環境の変化に配慮し、安心が確保できるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所に至った経緯やそれまでの背景をお聞きし、家族様の思いに耳を傾け、家族様が安心できるように信頼関係を築いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	何が必要なのかを考え、ご本人にとって本当に必要なサービスであるか見極めるように努めている。その中で他のサービス利用も視野に入れた対応をするように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	役割を持ってもらったり、家事を手伝ってもらうなど本人の能力が生かせる機会をつくり、人生の先輩として、知恵をお借りする関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	施設での様子や本人の気持ちを家族にお伝えし情報を共有して共に支えられるように努めている。また様子をお伝えするお便りも毎月出している。		
20	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や知人との面会や外出を通して、これまでの馴染みの関係が途切れないように努めている。	これまでの地域社会との関りを継続するために、馴染みの知人からの連絡にも慎重に対応している。地域のスーパーへの買い物など、懐かしい場所との関係を大事にした支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の顔が見えるよう座席を配置し、関わり合えるよう支援している。また、トラブルが起きないよう関係を把握し、席替えをするなど調整に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も相談や近況報告を受けたりしている。必要があれば、関係機関に働きかけている。		

自己	第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いが汲み取られるよう、一対一で関わる時間を大切にしている。得た情報は個別記録に記入し、ミーティングでも共有するようにしている。	ケアマネジャーがフロアーリーダーであり、日々のかかわりの中で思いや暮らしへの意向を確認している。利用者の言葉を日々の行動や表情からくみ取り把握している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族、馴染みの知人等から得た情報を共有し、これまでの暮らしの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の生活状況、精神状態の把握に努め、ケアに取り組んでいる。		
26	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族の思いを大切に、スタッフと話し合いながら、介護計画を作成している。	ご本人には日頃のかかわりの中で、思いや意見を聞き、状況や介護に関わる変化に対応できるような介護計画にしている。3ヶ月に1回モニタリングを実施しその内容はカンファレンスで職員間で共有化を図る。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアを個別記録に記入し、情報の把握、共有に努め、介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	法人内の小規模多機能やデイサービスとの交流を持ち、柔軟な支援やサービスに取り組んでいる。		

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29			○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の方に野菜作りのアドバイスを頂き、施設内の畑での作業に活かしている。地域のボランティアの受け入れも積極的に行っている。		
30	(14)		○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的には提携医の定期訪問診療を利用いただいているが、希望があれば、他医の受診に同行している。	事業所の提携医とは密に連携を図り24時間体制での看護師の対応が確立できている。他医への受診は家族同行で受診も行える。歯科往診や薬剤師の訪問など適切な医療が受けられるよう支援している。	
31			○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週一回訪問看護師による健康チェックやアドバイスを受けている。施設兼務の看護職員の協力も得、適切な受診や看護が受けられるようにしている。		
32	(15)		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、病院関係者に情報提供し、退院時は医療地域連携室と情報交換し早期に退院できるように相談するよう努めている。	入院時は本人の支援情報を提供し、入院中は職員が見舞うようにし回復状況等の病院関係者と情報交換に努めている。退院時には病院の開催するsカンファレンスに参加し速やかな退院支援に結びつけている。	
33	(16)		○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族、かかりつけ医と相談しながら支援している。施設の看取りの指針に沿って話し合っている。	看取り指針を作成し事業所として対応できるケアを契約時に説明している。看取りの経験も豊富でありかかりつけ医や看護師との連携も強化され安心して最期が迎えられるような体制が整えられている。	
34			○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応マニュアルにそった対応をしている。研修会や訓練を実施し、実践力が身に着くよう努めている。		
35	(17)		○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	3月に消防署立ち合いのもと、夜間を想定した避難訓練を行った。10月に災害時を想定した避難訓練を予定している。	消防署の協力を得て避難訓練を年2回定期的に行っている。、今年度は3月・10月に実施した。避難経路等に関しては3階ベランダで待機し救援を待つとの指導を受けている。	計画的な災害対策の策定。例えば備蓄の整備と管理が必要です。まずは非常用飲料水の確保を検討願いたい。

自己 者 第 三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
36	(18) ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉づかいや対応に気を配っている。人生の先輩として接するよう心がけ、プライバシーが確保出来るよう配慮している。	排泄への対応など尊厳ある姿勢をととても大切にしている。人前であからさまに介護したり、誘導の声かけをして本人を傷つけないケアが浸透している。さりげないケアを心がけ本人の気持ちを大切に考え対応している。	
37	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の言葉をゆっくり聞くように心がけている。何もないとこからの表現は難しいので、選択肢を示して選んでいただくように働きかけている。		
38	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の体調や気持ちに合わせて調整するようにしている。		
39	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	「似合っている」とか「素敵な色ですね」等、積極的に声をかけ、本人の身だしなみへの関心が保てるよう働きかけている。		
40	(19) ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	配膳や片づけを一緒にしている。食材や調理法について話題にし、食への関心や楽しみが増すよう働きかけている。月に数回は昼食やおやつを一緒に手作りしている。	利用者の個々の力を活かしてお米をとぐ人、お茶を入れる人とできる家事を職員と一諸に行っている。事業所の畑で採れたジャガイモやサツマイモを使いカレーライスやおやつ作りに取り組みメニューを工夫することも楽しみとなっている。	
41	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量の把握をし、体調や希望に応じて時間をずらしたり、間食で調整するよう支援している。		
42	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人ひとりに応じた口腔ケアを促している。就寝時には義歯の洗浄、消毒をしている。		

自己	者第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の習慣、パターンを把握し、トイレ誘導等、その人に合った支援を行っている。	ひとり一人のサインを職員が把握し、時間誘導とご本人の習慣やパターンに応じた個別の排泄支援を行っている。現在の排泄パターンが維持できるように自立に向けた取り組みを実践している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝体操し身体を動かすよう働きかけている。水分摂取に注意し、自然排便が困難な場合には、医師と相談しながら下剤を服用して頂いている。		
45	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	個々の希望や体調・タイミングを考慮しつつ週2～3回入浴できるよう調整している。	週2回の入浴は計画的に実施している安心と安全に入浴できるように職員2名での体制も整備している。体調に合わせた変更もできる。排泄の汚染等の対応としてシャワー浴も随時行える。	利用者の重度化に対応できるように浴室環境の検討を願いたい。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣やその日の体調に合わせて休息をとっていただいているが、日中はできるだけ起きておくよう働きかけ昼夜逆転しないように気をつけている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ずつの服薬リストを作成している。処方通り正しく服薬できるよう支援している。変化が見られた時には医師に連絡相談し、対応するよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の得意分野が活かせるよう見守りの中、個人にあったお手伝いをお願いし役割を持ってもらうことで喜びや楽しみのある日々を過ごして頂いている。		
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望者は法人内の体操教室に参加するなど自立や意欲を尊重している。月ごとに桜や藤の花見や明石海峡大橋などに出かけ、季節を感じていただいている。	四季折々の行事に合わせて普段は行けないような場所へ利用者全員が参加できるように支援している。近隣の散歩など職員と一対一での外出支援などひとり一人が外出を楽しめる支援に積極的に取り組んでいる。	



自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50			○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金はトラブル回避のため手元には置かず、事務所預かりとさせていただいている。買い物時には可能な方には本人に手渡し、支払いもできるよう支援している。		
51			○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	事情により、電話がかけられない方もいるので、時間帯や使う電話の設置場所を考慮しながら、できるだけ希望に添えるよう支援している。		
52	(23)		○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	こまめな換気を心がけている。季節に合った壁飾りを一緒に作成している。食堂兼居間の狭い空間であるため、生活時間がズレてしまう方がいる場合には個々の居室を使用するなど配慮している。	利用者が多くの時間を過ごす共有空間は、明るく清潔感が漂う、換気にも配慮され穏やかに落ち着いて過ごせる場となっている。フロアには職員と共に作成した絵やコスモス見学に出かけた写真が掲げられ季節感が感じられる。	
53			○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合うもの同士、個々の居室を行き来しおしゃべりするなどして楽しまれている。敷地内の庭でお茶を飲みゆっくりと過ごせるように働きかけている。		
54	(24)		○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具等を持ち込んでいただいている。整理等お手伝いさせていただくが、本人の意見を尊重するようにしている。	寝具やタンス、思い出の写真や大事にしているぬいぐるみ等使い慣れた馴染みの物をそばに置きその人らしく居心地の良い居室となっている。居室ドアには名前を大きく表示し迷うことのないように工夫している。	
55			○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	「できること」が継続して行えるよう利用者、スタッフの意見を取り入れ、改善、工夫を加えながら環境づくりに取り組んでいる。		